



震災当日の府中



(東日本大震災ふちレポート
ト
第2巻)

株式会社なまあず本舗
なまあずソリューション

東日本大震災ぶちレポート 第2巻 震災当日の府中

東日本大震災の被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。特に津波の被害が甚大であり、この国の先行きにも大きな影響を与える地震になりました。復興までかなりの時間が、かかると思います。国民みんなで力を合わせてこの難事に対処していきましょう。

さて、2011年3月11日の地震当日の私の行動と周囲の観察を書いていきたいと思います。テレビっ子の私が、地震当日は夜までテレビを見ませんでした（正確にいうと見ることはできなかった）。そのため地震当日の東京西部（事務所は府中、道路は多摩、日野、立川等）の状況を冷静に色眼鏡なく見ることができました。この経験は個人的に貴重でした。

このレポートは写真がゼロで読みにくいと思いますが、是非参考にさせていただければと思います。

（このレポートは震災発生後の3月下旬に書き、5月に発行したものです）

第一章 地震発生！

地震当日は事務所でいつも通り。構造計算の仕事をしていました。メンバーは全員事務所にいました。メンバーの誰かが「揺れている」といいました。初め気がついたときはそれほど大きな揺れはありませんでした。しかし経験のない船酔いしそうな大きな揺れが襲ってきました。

落ち着くように所員にいい、私はビデオの電源をONにして揺れの撮影を開始、メンバーにネットの情報を検索するように指示、他のメンバーには頭の上だけを気をつけるように指示しました。大きな揺れが来た後、増幅されなかったのもこれ以上大きくならないと判断しました。しかし揺れは長く納まるまでかなりの時間を要しました。

ネットがつなげるようなら、なまあずのホームページ (<http://namazu-h.sakura.ne.jp/>) に当日撮影したビデオが載っています。かなり揺れていることがわかりいただけだと思います。物が落ちたり、書類が落ちたりしましたが、幸い本棚から本が落ちたり、商品が落ちることはありませんでした。数分間揺れました。最初に揺れに気がついたときより、かなりの時間が経ってから大きく揺れました。誰もが、巨大な地震が発生したとの認識を持ちました。それも東京から遠くのほうでの地震と判断できました。

揺れでの被害はありませんでしたが、すぐに電話はつながらなくなりました。携帯電話・FAXも使えませんでした。ただ外を見ると普段と変わらない生活が広がっていました。近所では特に建物の異常などは聞こえてきませんでした。

しかし30分も立たないうちに状況は変わってきます。ラジオやネットで震源が東北地方の海であること、津波の可能性が高いこと、マグニチュードが大きい大地震の可能性が高いこと……。電車もほとんどがストップしたとの連絡で、しばらく様子を見ることとしました。所員には通常業務を指示。しかし次々にくる余震や、本震ではならなかった緊急地震速報がなったりして、事務所内は騒然としました。

なまあずショップは、お客様が一名ご来店。職場が地震のため終わったが、一人では怖いとのことで寄ったらしい。外をみると、帰宅に向かうと思われる人の列が旧甲州街道沿いに見られるようになり、車も普段より多く旧甲州街道も渋滞の可能性が出てきました。

ここに至り、業務を続けていましたが6時頃、事務所もショップも閉店することに決定。6名のうち4名は府中市内で徒歩でも帰れるので自由解散、あとは多摩と立川であり、私が車で送ることになりました。

地震当日の道路の状況（多摩・国立・立川へ）

第二章 地震当日の道路の状況（多摩・国立・立川へ）

携帯電話や電話が通じなくなり電車が止まったとはいえ、電気ガス水道は無事、建物も無事。インターネットも無事でした。そこでニュースでもあったようにネット、特にツイッターなどが活躍したようです。

所員で送っていかねばならないのは多摩方面と立川方面。ちょっと方向は違うが一筆書きで行ける地域。しかも私にとっては地の利がある地域でした。その判断が出発を遅らせてしまいました。

私もtwitterなどを駆使し、出発前にかかなりの渋滞が予想されることがわかりましたが、とりあえず出発しました。まずは多摩川を渡ることが大仕事です。鎌倉街道は既に大渋滞。幸い自宅付近のガソリンスタンドが空いていたので、レギュラー満タンに。これで安心して運転できます。このガソリン給油は3月いっぱいの私や事務所の活動に大きな意味を持たせることになりました。その後のガソリン騒動に巻き込まれずに済んだのです。ちなみに愛車ムーヴのガソリンは4月まで持たせることに成功しました。

勝手知ったる府中市内は裏道を駆使して多摩川にかかる橋に到達しました。野猿街道のほうは比較的空いているとの予測は的中しました。鎌倉街道を使わなくて良かったです。その後は順調で普段とそれほど変わらない時間で一人目を送りどけました。彼の日頃の行いが良いのか・・・。

しかしここで情報を確認すると再び川を渡って立川方面に抜けるのは至難の業とわかりました。カーナビでルート検索をしても使えるルートは限られています。道路状況から、大きな道はどこも車は動いていません。仕方がないので、とりあえず山を下り日野市の方面に進路をとりました。元のルートでも良かったのですが、夜になると更に渋滞がひどくなることが予想され、最短ルートで立川に入りたかったからです。しかし・・・モノレールの近くで、まったく車が動けない・・・大渋滞に巻き込まれます。西に向かうルートはかなり厳しいことがわかり、仕方がなく聖蹟桜ヶ丘方面に抜け、元の道路で府中へ戻ることに。あとで検証するとこの判断は正しかったようです。高幡不動から橋を渡るまではスイスイ進むことができました。

しかし出発したときよりも府中市も混雑していました。府中市に入ったとたん動きがとれなくなりしました。我々が国立バイパスと呼んでいる抜け道も大渋滞。国立の地勢に明るい私はひたすら迂回を続け立川へ。しかし線路の北側に向かうルートが見つからない・・・混雑覚悟で通常ルートを行ったら・・・混雑していたが普段とそれほど変わらない混雑で抜けられました。普段は絶対使わない駅近ルートを渋滞に巻き込まれながらも想定の範囲内で抜けられました。そして二人目を無事送り届ける。この時点で20時を過ぎていました。テレビを見ていなかったのかわかりませんが、都内の渋滞は半端じゃなかったようです。情報を知っていたら・・・どうしていたんでしょうねえ。幸いガソリンは心配なかったのと、翌日が土曜日ということもあり、焦らずにすみしました。

府中へ帰る

第三章 府中へ帰る

さて、あとは府中に帰るだけです。既に府中方面へ向かう主要道路で大渋滞でない道路はなく、コンビニで飯を食べながら作戦を練る。抜け道も難しそうなので五日市街道から府中街道へ抜ける本来なら「最悪」なルートを選択。時間がかかっても安全策をとる。こういうときはジタバタしても仕方がない。幸い、ガソリンも食料も十分にある。12時は過ぎると思うが仕方がない。ラジオを聞く限り、都内の方々は家にすら帰れず、臨時の宿泊所（体育館や学校）で止まらざるを得ないらしい。それに比べればまし……。たしかに歩いている人が非常に多い。電車はまったく動いていないらしい。

しかし立川を出るとその気分も打ち砕かれる。車が動かないのだ！混雑する五日市街道とはいえ、本当に動かない。このままでは駄目！と思い、国立の北側に抜ける裏道を選択してひたすら南下。幸い、知っている道なのでうまく迂回して混雑を避けられた。しかし国立には南に抜けるよい道がない。また北に迂回すれば渋滞に……。というわけで、覚悟を決めて国立駅の東の細い道を選択……。しかしまったく車はなく南口へ抜けられた。しかしここからが大変！府中方面へは大渋滞が待っていた。普段の抜け道はすべて待ちの車で渋滞。行きたくはないが、他に選択肢がないので流れのまま抜ける。最後の2つの選択肢があったが、迂回ルートを選択……。しかしここは大失敗。例の国立バイパス待ちの車に巻き込まれて動けなくなる。そこから南は空いているのに、抜けられない……。数十分待って抜ける。あとは一番近い駐車場ポイントである実家へ抜け、無事に10時半に到着。予定よりかなり早く到着はできたのだが、疲れがどっと出る。実家では私が思ったより早く帰ってきたことに驚いた様子。つまりテレビではほとんど車が動かないと報道されていたようです。

その後、テレビで情報収集。都内の電車が走らないとか、臨時の宿泊所のこととかの情報は入ってきましたが、肝心の東北地方の様子はほとんどわかりませんでした。詳しいことは翌日知ることになります。

非常に長い一日でした。

教訓としては……

- ・震災後、車で出かけない
- ・ガソリンは満タンにしておく
- ・よく知られている抜け道は使わない
- ・できるだけ動かない
- ・変な情報に惑わされない

さて、東京で震災が起こったら大変なことになるな……。ということだけは理解できました。直接の被害が少なかった東京でもこれだけの混乱がありました。直接の被害が大きかったら、さらにすごいことになっていたことは想像に難しくはありませんが、その内容を予測することは不可能に近いです。日頃の備えと、緊急時の動き方などをあらかじめ考えておいた方がいいと感じました。

(終わり)